

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 119 号
2021年 12月



第 179 回観察会・高子二十境陽だまり観察会

伊藤みどり

乾いた落ち葉の音を足裏に感じながら、冬枯れの雑木林を歩く。日常を離れ鬱陶しい情報から解放された幸せタイムです。山は里山でも異界なかもしれません。

今年はどうぐりの当たり年のようです。着地した途端によいドンと生存競争が始まるのでしょうか。守さんのどんぐりは運よく苔の傍で発根しました。一方、枯葉の上で曲がりくねった根を 7cmほどに伸ばして往生してるどんぐりもありました。たとえ上手いこと発芽して幼木になっても、踏まれ、刈られ、さらに親木たちの下で、一人前のコナラに成長できる日は？がんばれどんぐりちゃん。ジョロウグモが一匹、お尻を下に、天を仰いで破れた網にしがみついていた。もう、重力に逆らう力は使い切ってしまったようです。リサさんの「何で赤い実が多いの？」の問いに、反射的に「鳥にみつきやすいから」と答えてしまいました。高い梢に赤い実をつけているアズキナシをみて、やはり空を飛ぶ鳥にアピールしてるのかなと思いましたが、どうでしょうか。

渡り鳥は阿武隈川沿いに移動するそうです。赤い実につられて高子の林で一休み、そして南下。同じ阿武隈川の上流左岸に位置する蓬萊の植生が、この高子の山の植生に似ていることには渡り鳥も一役買っているのかもしれない、と勝手な想像をめぐらせてしまいました。ツルリンドウが宝石のようなあずき色の実を惜しげなく堂々とさらしているのは驚きでした。笹を垂直によじ登ったり、他の蔓にまきついて空中ブランコしたり、あちらにもこちらにも。さぞ居心地の良い場所なのでしょう。

風も無くさほど寒くも無く、短時間でしたが、ゆったり楽しめた観察会でした。昔人が、出羽三山をこの地に迎えてしまった気持ち、わかるような気がします。



冬枯れのコナラ林を



コナラの発芽



アオハダ

高子沼の対岸の山に、ソーラーパネルが、てっぺんから山裾までなだれ落ちるようにしきつめられていました。吾妻山にもメガソーラーが計画されているとか。原発、火力、山野を削ってのメガソーラー。今、私は暖房を止めて着ぶくれています。



ツル lindou



高子沼遠景



ヤマモミジ



身体のものさし7 ～右眼を愉氣する～ 土井 昇

震災・原発の後、農業関係の人たちは大変な毎日を過ごしており、具合が悪くなった息子を診てほしいと母親から頼まれた。尋ねると「十二指腸潰瘍の診断で薬をのんでいるがよくなる」という。いつもの快活な表情も眼の力もなく、落ち着かない様子だ。調べてみると胆が虚していた。ふつう眼の系統なら第三肋骨が右捻じれだが、逆の左捻じれ。試しに左眼に愉氣しても肋骨捻じれと骨盤の回旋が治らない。眼の系統ではないと考えてみたが、右眼に掌を移すと、なんと第三肋骨の捻じれと骨盤の回旋がとれるのである。右眼に触れるだけで変化するのは間違いなく眼の系統であると思うが、どんな理由があるのか知りたくなった。まずは、左眼に愉氣しても反応しない眼の系統が存在する事実を認める必要がある。



右眼を癒す

胃酸過多によって十二指腸の粘膜に炎症が起き潰瘍に進行する例がある。その場合、胃経を補ったりするとかえって胃酸の分泌が増して悪化する。胃酸分泌を抑制する陽陵泉(ようりょうせん)を抑えていると落ち着くことは経験しており、今回もそうした処置を試みた。右眼とこめかみを弛めてから全身の胆経をゆっくり手当した後、陽陵泉にじっと愉氣する。この陽陵泉は胆経のライン上にあるツボで必要のない時には何の反応もない。しかし、ここを抑えていると次第に落ち着いて来て、気分が良くなっているらしい。40分程で白い顔に血色が戻って、いつもの張りのある笑顔になり、「ちょっと食欲が出てきました」という。自宅ではここに灸を10個連続してすえることをしばらく続けるよう話ししておいたが経過は良好で再発していない。

右眼で改善する眼(神経)の系統が在ることで、身体は皆、違うことを痛感させられた。各人の特性もそうだが、同じ人でも日によって、あるいは状況によって変化する。だから同じ人でも一回ごとにその時の身体を丁寧に観察しなくてはならない。今までの経過を参考にしながら、新しい変化をありのままに受け止め対処したいと思う。

以前診た十二指腸潰瘍の人も会社の管理職で、いつも仕事のことが頭から離れない。今回の青年も若くして会社の重要なポストにおり、公私の別なく働いている。根を詰めると胆を病むことがあるのだ。意欲的な青年が夢見た世界に自らを置き、休んでなどいられないと意気込んだが、身体がブレーキをかけた。交感神経の過緊張からのリバウンドで副交感神経の過緊張に至るケースは成人喘息でも知られている。副交感神経の過緊張を抑えねばならない時には、まずは交感神経の回復が優先されるのかも知れない。

精神の働きと身体の状態のすり合わせがうまくないとトラブルが発生する。行動(緊張)と休息(弛緩)のバランスを呼吸が教えているが、眼への愉氣はそれを測ることもでき、スイッチの切り替えにもなる。しかし、日常的に身体の声に聴く練習を積んでいないとトラブル時には結局あわててしまう。自分の身体のものさしが作れていないからである。

「花の名前、和名の由来と見分け方」という本に出会いました。皆さんに知ってもらったら嬉しいなと思い、その本を参考にしながら書いてみました

ツルリンドウ

(蔓竜胆)

リンドウは「リュウタン」と呼ばれ、その後リンドウになった。ツルリンドウは、花が薄紫色でリンドウの花に似ており、茎は蔓状なっているので、ツルリンドウとなった。花は小さいが、実は花に似あわず大きな赤い実を鈴なりに付けて可愛い。11月になると、その他の花も咲いていないので、赤くて大きな実は目に止まる。



ツルアリドオシ

(蔓蟻通し)

トゲがあるアリドオシの花に似ていて、つる状なのでツルアリドオシと名付けられた。ツルアリドオシにトゲはなく、つるは地上を這い、花は白い花を2つ咲かせるが、基部で繋がっている。秋に赤い実が1つ実り、果実は球状で頂きに穴が2つ開いているので、ブタノハナとも呼ばれている。ルーペで観ると面白いです。



カシワバハグマ

(柏葉白熊)

葉の形が粗い鋸歯の様子が、柏の葉似ていることに由来。「白熊」は頭花の白い花びらが、白熊に見えるので、この名前が付いた。葉の付き方が互生だが、一定箇所集まる。カシワバハグマ、オヤリハグマ等はコウヤボウキ属だが、オクモジハグマ、キッコウハグマはモミジハグマ属に分類されている。



ハキダメギク

(掃溜菊)

北米原産で日本各地にも咲き野生化している。今は畑や道端などでも見かける。命名は牧野富太郎。ゴミを掃溜める場所にも生える事、キクの花に似る事から、ハキダメギクと名づけた。その後北村四郎が高山植物のミヤマコゴメグサに似ていたのので、コゴメギクと命名したが、それはハキダメギクと同じであった。



アメリカイヌホオズキ

(米国鬼灯)

北アメリカ原産で、有毒である。花姿がホウズキに似ているが、花、実、ガクも似ていません。イヌは、犬ではなくホオズキではないと言う事です。花は白く小さくナスの花に似ていて、ナス科です。他に、イヌホウズキと言う花もあるが、葉幅が広く茎は太いです。



ベニバナボロギク

(紅花檻樓菊)

アフリカ原産で、帰科植物です。空き地などでよく見かける。咲き始めの頭花が紅色に見えるので、ベニバナとなった。花が終わりかけるとガクが開き、白色の細い毛の様になり、球状に包まれる「筒状花の集合」と言う事です。これが「ボロ」です。



高山の原生林を守る会 2021年定期総会報告

2021年11月21日(日) 午後13:00~15:30
東部学習センター会議室

2021年活動報告

月 日	内 容	参加人数
11月23日(月)	第173回信夫山陽だまり観察会と総会	19名
12月12日(土)	野手上山空間線量調査	2名
3月5日(金)	吾妻山周辺森林生態系保護地域の保安全管理に関する検討会(書面開催)	1名
3月20日(土)	第174回土湯峠・ブナっ子路雪上観察会	7名
4月25日(日)	第175回虎捕山・石田ブヨメキ湿原観察会	23名
5月5日(水)	第176回半田山・スミレと春の林床植物観察会	17名
5月30日(日)	花塚山登山道放射線量調査	6名
6月14日(月)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF米沢、東北山岳ガイド協会と共同、一般公募)	2名(+10名)
6月20日(日)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF米沢、東北山岳ガイド協会と共同、一般公募)	5名(+5名)
7月4日(日)	第177回駱駝山の高原植物観察会	中止
7月13日(火)	磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会	2名
9月26日(月)	第178回早稲沢遊歩道紅葉観察会	20名
10月3日(日)	霊山空間線量調査	5名(+2名)
10月15日(日)	西吾妻登山道誘導ロープ取り下げボランティア(NF米沢、東北山岳ガイド協会と共同、一般公募)	4名(+1名)
11月19日(金)	裏磐梯自然保護官事務所打合せ	2名
11月21日(日)	第179回高子二十境陽だまり観察会と総会	22名

2021年 高山の原生林を守る会 決算書

収入 (単位 円)				支出 (単位 円)			
科 目	予算額	決算額	摘 要	科 目	予算額	決算額	摘 要
前期繰越金	151,734	151,734		会議費	3,000	700	
年会費	50,000	43,000	1000円×41名(会員数47名)	郵送費	15,000	12,038	会報(No 111~No114)
観察会参加費	50,000	41,000	500円×82名(+5名 対2020年)	観察会経費	5,000	0	
保険金差額繰入金	1000	7,925	前払い金と実績申告の差額	交通費	20,000	19,000	観察会車代
雑収入	1000	2,000	カンパ	保険代	38,000	32,470	120人分(含手数料)
合 計	253,734	245,659		HPプロバイダー料	4,000	4,730	含手数料
				印刷費	30,000	22,296	会報、資料等印刷経費
				雑費	10,000	12,178	西吾妻ロープ設置資材等
				予備費	128,734	0	
				合 計	253,734	103,412	

収 入 245,659 円

支 出 103,412 円

差引残高 142,247 円

収支差引残金 142,247円は次年に繰り越すものとする。

2021年11月21日
高山の原生林を守る会 代表 佐藤 守

2022年活動計画

1. 観察会、登山道保全活動、阿武隈山地の放射線量調査を事業の3本柱とします。
2. ロープ設置作業の一般公募を天元台側とデコ平側に分けて継続します。ロープ取り下げ作業はゴンドラを利用します。ゴンドラ代は全額参加者負担としますが、来年度以降、年間1万円を上限に一般公募者に対して会として助成したい。別途、公募の際には、ボランティア資金の寄付を呼びかけます。(新聞掲載・YAMAPの登山道補修事業への支援等)
3. 環境省の磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会(国立公園満喫プロジェクト)登山フィールド部会に参画し、西吾妻山域登山道保安全管理組織の具体化を働きかけます。

ボランティア作業に係る経費(資材、ロープウエイ・リフト代)を支援していただける方を求めています。ご協力いただける方は下記に振込をお願いします(通信欄に「ボランティア資金」と記載をお願いします)
郵便振替:02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

東海道新幹線ではいつも山側の座席に座る。東京駅を発車して丹沢・箱根の山々を眺めてから丹那トンネルを抜けると、裾野を大きく広げた富士山が現れる。富士はいつ見ても別格だ。続いて富士川橋梁を渡って濃尾平野を突っ走った電車が、岐阜羽島駅を過ぎると間もなく大きな山が目近に迫ってくる。伊吹山だ、私はこの山を眺めるといつも一度登ってみたいものだと思った。

現地の観光協会に電話で花の開花状況を尋ねると、花は見頃でシモツケソウは今が盛りとの回答、天気予報も三日続きの晴天だ。それではと晴天の中日を狙って登る計画を立てた。初日は大垣で泊り翌日伊吹山に登って近江八幡へ、その後比叡山を参拝し最終日京都で桂離宮を見学して午後の新幹線で帰福する、三泊四日の旅程だったのだがあのコロナ騒ぎ、仕方なく伊吹山登山だけにして他は諦めることにした。

大垣駅発のバスは関ヶ原駅を経由して関ヶ原古戦場の中を進み、いよいよ伊吹山ドライブウェイに入る。曲がりくねった坂道は次第に高度を上げていき、定刻に伊吹山九合目の終点に到着した。観光協会の情報では花は今が丁度見頃のはずで、ガイドブックによればこの時期は全山高山植物であふれ、特に九合目から山頂部にかけては、シモツケソウのピンクで埋まり、そしてその中に点々と赤や黄色や紫の花々が咲く天上の楽園になっているはずなのだが、見渡すとササの葉が生い茂る濃い緑一面の世界だった。道標に導かれて登山道の入口まで進むと、そこは金網の扉を開けて登山道に入るようになっていた。

伊吹山は古く戦国時代の昔から花の山として知られ、麓から頂上まで高度を上げるにつれて咲く花も変わり多くの花々が咲き競っているはずなのだが、ドライブウェイにも九合目からの登山道にも花らしきものは見られなく事前情報の満開の花は一週間もせずに散ってしまったのか、それとも情報を聞き違えたのかと不思議な気持ちで頂上を目指して歩き始めて十五分、道の先にパーっとピンクに輝くお花畑が現れた「あっ、花が咲いてる」と急ぎ足で近づくと、柵に囲まれたテニスコート五面ぐらいの広さの中のそこは、満開に咲いたシモツケソウの大群落だった。早速身を屈ませて柵の間からカメラのシャッターを切っていると、腕章をつけた男女がニコニコしながら話しかけてきた「どうです、きれいでしょ？シモツケソウです。今年もずいぶん咲きました」と自慢気に。二人は「伊吹山もりびとの会」の人たちで、「どちらからですか？」と聞かれて「福島県からです。観光協会では伊吹山の花は満開だと聞いて、山全体が花であふれていると、想像してきたのですが」と疑問をぶつけると、戸惑った顔をして「花はここだけです。伊吹山全部の花が野生の鹿に食べられてしまいました。花の無くなった所はササと外来植物に占領されてしまいました。以前はバスを下りた所から頂上まで山全体がピンク色で埋め尽くされていたのですが、せめてもとここに鹿柵を巡らせ残っていたシモツケソウの株を移植して、やっとここまで増やしたのです。移植は邪道だという人もいますが」「どのぐらいで元のようになりますか？」と問うと、「何十年もかかるでしょうね、もう無理だと言う人もいます。鹿が増えたのも、外来種の植物に占領されたのも地球温暖化のせいだそうです。」と無念そうに解説してくれた。

そもそも伊吹山の山頂一帯に生育する植物(約 800 種)は、国指定の天然記念物に指定され、なかでも8種類の固有種は特に貴重なものだが、今それらは野生鹿の食害や外来植物の侵入で生育地を奪われ、また交雑種も増えたりして絶滅の危機にあるようだ。

それから会の人たちに別れを告げ30分も歩くと1377mの伊吹山山頂。眼下には大きく光る日本一の湖、琵琶湖を望むことができ湖面には神の島竹生島も浮かんでいる。その向こうには比叡や比良の山々が鎮座し、手前には関ヶ原・賤ヶ岳・姉川と歴史に残る古戦場。南に顔を向けると鈴鹿の山も霞んで見えた。そして遠くには同定はできなかったが日本アルプスや白山等々の人気の名山が重なり重なっていた。現在の伊吹山は残念だが花の百名山の名は返上せざるを得ないが、日本百名山の称号を冠するのには何の不足もない。

それから会の人たちに別れを告げ30分も歩くと1377mの伊吹山山頂。眼下には大きく光る日本一の湖、琵琶湖を望むことができ湖面には神の島竹生島も浮かんでいる。その向こうには比叡や比良の山々が鎮座し、手前には関ヶ原・賤ヶ岳・姉川と歴史に残る古戦場。南に顔を向けると鈴鹿の山も霞んで見えた。そして遠くには同定はできなかったが日本アルプスや白山等々の人気の名山が重なり重なっていた。現在の伊吹山は残念だが花の百名山の名は返上せざるを得ないが、日本百名山の称号を冠するのには何の不足もない。



伊吹山



シモツケソウ



食害回避鹿柵設置の説明ポスター

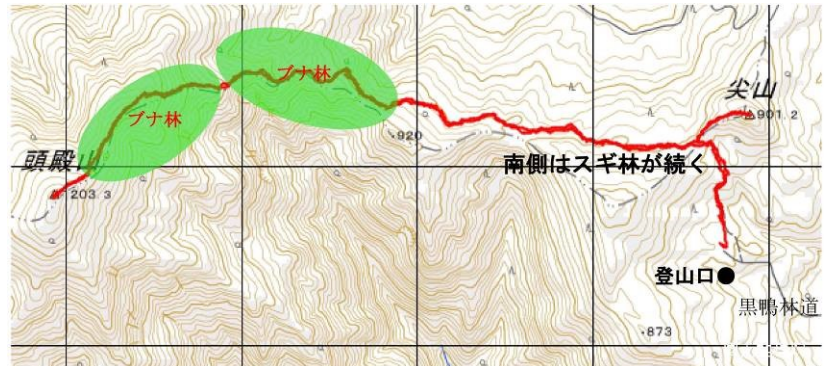
東北ブナ紀行（79）

奥田 博

大朝日連峰の展望台として知られる頭殿山。中間地点から山頂付近まで続くブナ林は見事。天狗山は信仰の山だが、中間部に建つ護摩堂から山頂までは、ブナ林が点在することは知られていない。

1 2 2) 頭殿山（とうどのさん）1203m

頭殿山の名は、どこにあるかは知られていない。大朝日岳から以東岳へ続く最も古い道で、米沢藩から鶴岡藩に抜ける軍道が頭殿山を越えて現在の朝日鉱泉から大朝日岳に登られた。深田久弥も、頭殿山の北面を通過して大朝日岳に登っているという。しかし朝日鉱泉近くまで車道が開かれると、次第に使われなくなってしまった。



悪路の見本のような長い林道の最奥

に登山口がある。ここから前半の行程は杉林が続く。展望の尖山に寄りて、ひたすら西に向かう。道は尾根の北側を通過している。やがて今までの苦労が報われるほどの素晴らしいブナ林が現れる。山頂からの展望も絶品でした。

コースタイム：登山口（1時間50分）山頂（1時間20分）登山口

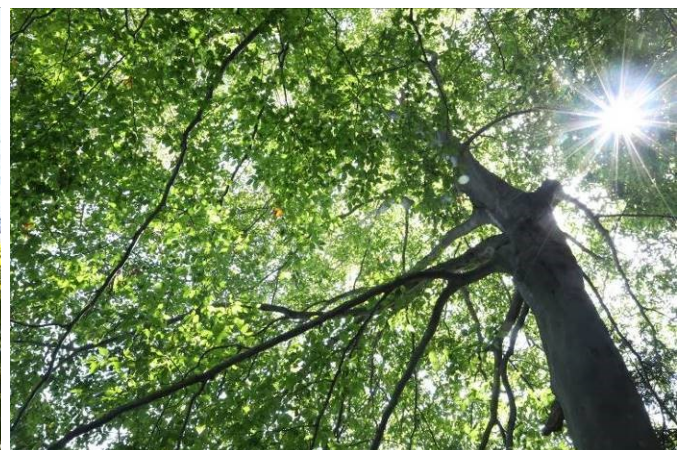
1 2 3) 天狗山 612m

天狗山は全国各地にある。白河市の天狗山は早春の花で有名。この飯豊町の天狗山は、長井市寄りの低い山だ。低い山なのに小白川地区には大きな鳥居が建っている。山麓から山頂は目立たないが、二荒山古峰神社の奥ノ院へたどる修験場であり、足場の悪い沢や滝の通過があり、それを窺わせる。



中腹の護摩堂には立派な神社が建ち、この先にはみそぎ場である清冽な水場が現れる。ここから本格的な登りに差し掛かり、尾根に上がるまでの間ブナが素晴らしい。大黒様に始まって、神様が15箇所現れるのも楽しい。頂上直下には、岩場の下に乳母権現が祀られる。昔は女性禁制の山であったので、ここから戻ったのだろうか。岩場を越えてたどり着いた山頂からは大展望が得られた。

コースタイム：登山口（50分）護摩堂（30分）山頂（20分）護摩堂・林道歩き（50分）登山口



頭殿山頂が近付くと黄葉が始まったブナにオオカメノキが彩を添える 天狗山のブナは護摩堂を過ぎると現れ、まるで聖域に入

リョウブ (*Clethra barbinervis* リョウブ科リョウブ属)

吾妻・安達太良連峰のコナラ林からブナ林にかけて植生する落葉広葉樹。日本で自生するリョウブ科は本種のみである。名前の由来は「令法」説や「竜尾」説などがある。「令法」は種子の量を表す単位。平安時代、田畑の面積に応じて植えさせ、ある一定量の葉を採取して貯蔵する官令が発せられた樹木がリョウブで、飢饉の際に葉を菜飯の材料として利用されたと伝えられる。「竜尾」は花が咲く姿から。材は家財やカンジキの材料となった。

幹は樹皮を削ぎ落としたような茶褐色と黄白色の雲母のような模様が特徴。同様の幹の外観を持つ樹木にナツツバキ、サルスベリ、カリン、プラタナスなどがあるが、東北の森に自生している樹木はナツツバキのみである。ナツツバキの幹は滑らかであるがリョウブはざらつきがある。

葉は互生。花が着く短枝では輪生状に着く。葉形は倒卵状長楕円形で葉幅は中央から先端にかけて最大となる。先端は短くとがる。葉縁には鋭くとがった単鋸歯がある。葉表面は無毛。裏面主脈に粗毛が生える。主脈から平行な側脈が葉縁に走る。葉柄には軟毛が密生する。葉では重金属と結合して無毒化する特殊なタンパク質が合成されることが知られている。

花は頂生。短枝の輪生状葉の先から数本の総状花序を着生する。花序の軸、小花柄、ガクには白い毛が密生する。小花は合弁花であるが花心部から5裂し、外観は花弁状、雄しべは10本、2個の葯がV字状に着く。葯の色は薄い肌色。雌しべは1本。柱頭先端は3裂する。花は独特の強い香りがある。花は花序の基部から先端に向かって開花するが、小花は短命で穂全体の花が咲き揃うことはない。開花期は真夏でむせるような暑さの中、咲き続ける。壮木が咲き始めた姿は濃緑色の葉群を背景に緑白の「竜尾」が壮観。

リョウブは発芽間もない頃に展開し始めた幼葉と光が織りなす光景の美しさは格別で、春が来るとその姿が見たくて山を散策する。輪生状に着く短枝の数枚の葉が立ち上がり、葉縁は紅色に縁どられ黄色みがかかった葉身に主脈と側脈で構成される幾何学模様が陽射しに透かしだされ、樹全体に端麗で厳かな雰囲気醸し出す。



ヒメイチゲ (*Anemone debilis* キンポウゲ科イチリンソウ属)

吾妻・安達太良連峰の湿原周辺やブナ林から亜高山針葉樹林縁の湿った草地に植生する多年草。日本に自生するアネモネ(イチリンソウ属)の仲間では最も分布域の標高が高い。吾妻・安達太良連峰では、中腹の沢沿いの草地などに群落を形成するキクザキイチゲとは植生域が交差せず高山側に隔離している印象がある。他のアネモネの仲間同様、代表的なスプリングエフェメラル植物であるが、分布域の標高が高く、残雪が消えるのは初夏の頃となるためそのイメージが薄い。

葉は輪生。根生葉の基部から花茎を直立させる。花の苞葉にあたる茎葉は3個輪生し、三出複葉で小葉は披針形で小葉柄はなく、葉縁は粗い鋸歯がある。根生葉も三出複葉であるが小葉は丸い。葉脈と葉縁に沿って短い白毛が散在する。

花は頂生。茎葉(苞葉)から花柄が伸びその先端に白い花を一輪咲かせる。花弁はなく、平開した5枚の花弁状の白いがくの内側に多数の雄しべが着生し、花心部は花柱基部の緑白から柱頭にかけて透明感のある白色に変化する多数の雌しべが集まっている。葯はへら状で白い。花柄は白毛に覆われている。

吾妻・安達太良の花の写真撮影を始めた頃はイチリンソウの仲間はキクザキイチゲしか知らなかった。麓のスプリングエフェメラルの探索を終え、ウワミズザクラが満開の頃に、頂を目指して登山をした。花の撮影はついでであった。辿り着いた湿原でワタスゲの美しい開花に出くわし、その近くでヒメイチゲの群落を見つけ可憐な姿に惹きつけられた。それ以後、ヒメイチゲはなぜか愛着の湧く花の1つとなった。



2022年自然観察会計画

回数	月日	曜日	候補地	テーマ	集合時間	解散時間	担当者
第180回	2/27	(日)	横向(鬼面山西山麓)ブナ林観察会 四季の里正面入り口(あづま橋側)	雪上観察	8:00	15:30	奥田 博
第181回	4/17	(日)	早坂山 スプリングエフェメラル観察会 四季の里正面入り口(あづま橋側)	早春の植物観察	8:00	15:30	五十嵐礼子
第182回	5/15	(日)	野手上山シロヤシオの森観察会 小鳥の森駐車場	初夏の植物観察	8:00	15:30	青柳静子
第183回	7/3	(日)	百貫清水の高原植物観察会 四季の里正面入り口(あづま橋側)	夏の高山植物観察	8:00	16:30	渡邊アヤ子
第184回	9/25	(日)	高山(幕川温泉からスカイライン)ブナ林 四季の里正面入り口(あづま橋側)	ブナ林紅葉観察	8:00	16:00	松井さき子
第185回	11/23	(水・祝)	布引山陽だまり観察会 立子山少年自然の家駐車場	里山の自然林観察	8:30	12:00	渡邊京子
総会			立子山少年自然の家		13:00	16:00	

山形と共同の西吾妻の登山道保全ボランティア

月日	曜日	山域	作業内容	備考
6月14日	(火)	西大巔鞍部	誘導ロープ設置	一般公募、NF米沢との共同開催
6月15日	(水)	(予備日)		
6月18日	(土)	西吾妻小屋		
6月19日	(日)	(予備日)		
10月15日	(土)	西大巔	誘導ロープ取下	一般公募、NF米沢との共同開催
10月16日	(日)	(予備日)		

第180回自然観察会案内：横向(鬼面山西山麓)ブナ林雪上観察会

日時：2022年2月27日(日) 8:00～15:30

集合場所 四季の里正面入り口(あづま橋側) 集合時間 8:00 参加定員 20名

内容 横向スキー場から鬼面山西斜面のブナ林を散策し、フィールドサイン、冬芽等の森の表情を観察します。
準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋(軍手複数)、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具(スノーシュー、カンジキ、スキー)

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用:保険代(500円)、申し込み:2月25日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

2022年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日(曜日)	回数	テーマ	観察地(集合時間・場所)
1/16 日	373	冬の生き物	廻戸周辺(10時:湯夢プラザ)
2/13 日	374	雪の自然観察	雪国文化研究所(10時)
3/13 日	375	春を見つけよう	廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
4/24 日	376	カタクリの里歩き	無地内・廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
5/15 日	377	夏の渡り鳥	廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
6/12 日	378	新緑の森 春の収穫祭	つきざわ周辺(9時:湯夢プラザ)
7/17 日	379	夏の花と虫	廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
8/21 日	380	水生生物と川歩き	廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
9/18 日	381	木の実と秋の花	廻戸周辺(9時:湯夢プラザ)
10/16 日	382	落葉とキノコ 秋の収穫祭	つきざわ周辺(9時:湯夢プラザ)
11/6 日	383	冬の渡り鳥	錦秋湖周辺(9時:湯夢プラザ)
12/4 日	384	初冬の森	廻戸周辺(10時:湯夢プラザ)

- カタクリの会は自然観察会を目的とした会で、どなたでも参加できます。
- 参加申込は各観察会の1ヶ月前から電話で受け付けます。
- 天候などの状況によって観察地の変更もあります。参加費は500円
- 通常は午前中開催となり、12時解散となります
- カタクリ通信を偶数月に発行しており、希望者には年間千円で年6回送付します。
(郵便振込:カタクリの会 02350-5-38765)
- 連絡先 代表 瀬川強 〒029-5512 和賀郡西和賀町川尻 41-72-15
電話&FAX0197(82)3601
email:tsuyosi.segawa1954@gmail.com

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第119号 2021年12月発行
編集・発行：高山の原生林を守る会 HP:<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>
代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)
郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」
入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで
編集：佐藤・奥田